

来年度(2025年度)川口市の予算編成
並びに各種施策に対する

緊急・最優先要望書

2024年 11月18日

日本共産党川口市議会議員団

金子ゆきひろ

松本さちえ

板橋ひろみ

ふじしまともこ

川口市への予算要望書提出にあたって

市民のいのち・くらし・しごとを守り、活かす施策の拡充、改善を

先の衆議院選挙では自民・公明の与党議席が過半数を割るという結果が示されました。政治と金の問題は長年続いています。高すぎる税金や社会保険料、光熱水費など高騰する公共料金の負担、一方で低すぎる年金や賃金で生活している国民からすればとても許せない問題であり、まさにその怒りが示されたのではないのでしょうか。国会の構成が変わり、国政が大きく動く可能性もあります。私たち日本共産党は、これまでの古い政治を刷新し、国民のいのち・くらし・しごとにとって前向きな変化について大きく期待し、そのために私たち自身も力を尽くすものです。

さて、川口市においては他市に比べて優れた施策、川口市独自の施策がいくつもあります。例えば、介護保険料区分の多段階化、国保税の多子世帯減免、小規模事業者登録制度や住宅リフォーム助成制度の活用、中小企業への就労支援を兼ねた家賃補助制度や奨学金返還支援制度、小水力発電の実施、市内企業利用促進と組み合わせた太陽光発電設置への補助など地球温暖化防止対策の普及、市立の障害者短期入所施設、夜間中学校の運営や市立幼稚園、自校直営の学校給食調理、精神保健分野における若年者早期相談・支援事業、ヤングケアラー支援事業、市立の子ども夜間救急診療所などがあげられます。

しかし、決算委員会での審査も踏まえると、そのような施策でも周知不足では市民に対して川口市の魅力が伝わりませんし、利用しづらい制度となっている場合は予算を組んでも執行率が低いものもあります。川口市が、市民のいのち・くらし・しごとを守り、活かす施策について市民によく伝え、そして制度が利用されるよう常に点検し、利用者の声も踏まえて、拡充、改善をすることを求めます。

市民のための施策が川口市独自のものであること、川口市が先進的に実施していることだと市民が知ることは、自らの街への愛着につながるものと考えます。そして、より市民に喜ばれる施策に拡充、改善していくことは、川口市の魅力が増すこととなります。

本日提出した予算要望書の具体化にあたっては、日ごろの市民との対話、各地での市議会報告会、各団体との市政懇談会などを踏まえてまとめたものです。本年度はもとより、新年度予算編成に生かし、合理性・計画性をもって施策の推進をはかるよう強く要望いたします。

2024年11月18日

川口市長

奥ノ木 信夫 殿

日本共産党川口市議会議員団

2025年度予算編成ならびに各種施策における緊急・最優先要望

1、市民に開かれた市政を

(1) 住民のくらしや市政に関する重要な行政課題の決定に際し、住民への情報提供の徹底はもとより、課題別検討会など住民参加・住民合意による民主的な市政運営に努めること。

(2) 市内10地区に歴史・文化・まちづくり・各地区の地勢を生かした地域・まちづくりを市民とともに計画・推進すること。そのための市民検討会と地区別懇談会等を直ちに設けること。

(3) 二元代表制の一翼を担う議会・議員に対して重要課題の経過説明、新規事業についての説明を怠らないこと。

(4) 「行政改革」のもとにすすめられる受益者負担を原則とした使用料体系のあり方を見直すこと。また、自治体がおこなう事業のアウトソーシング化、PPP（公民連携）、PFI（公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う公民連携）の推進は住民福祉の増進が前提にならないことからおこなわないこと。

(5) 中核市としての役割を果たすことができるよう、①職員の専門性の向上、専門職員の増員・育成を行うこと。②市民サービスの向上のために、事務移譲等に伴う中核市への税源移譲を含む財源確保を国に求めること。③川口市保健所の鳩ヶ谷庁舎への移転を見据え、保健・医療・福祉の連携が充分にとれるよう進めること。

(6) 指定管理者制度について①制度の導入は、行政責任を曖昧にする恐れが多分にある故、関係者はもとより、市民合意を基本に据え、安易な移行は行わないこと。②これまでの実績を十分に考慮するとともに、専門性やサービスの質、継続性、安定性などを選考基準に明確に位置づけること。また、施設の管理運営に対するモニタリングを随時行い、運営への市民参加を進めること。③指定管理者に雇用されている労働者の雇用条件の向上について行政として配慮すること。④利用者の声に応え、事業内容の充実に努めること。⑤指定管理者の再指定にあたっては、それまでの総括はもちろんのこと、指定管理になじむかなじまないか

も含めて再検討すること。なお、再検討にあたっては市民参加・市民合意を前提とする。⑥指定管理者に委ねた事業については、市が直接現場に赴き事業の中間点検(半年ごと)、定期点検(1年ごと)に、行政として点検評価し、改善に努めること。なお、上記の②～⑤についても中間点検・定期点検を実施すること

(7) 国に対して地方財政の健全化・自治権の拡充を要求し、そのための地方交付税率の引き上げ、福祉・教育などの国庫補助の復元・拡充など財政保障を求めること。また、臨時財政対策債に頼らずに法人税・所得税の見直しで地方交付税の財源を確保するよう国に求めること。

(8) 本庁舎・支所で市民に親切丁寧な対応ができるよう、総合支所・総合窓口の設置、市民サービスの向上に努め、常に改善がされるよう追及すること。職員数を増やし体制強化をはかること。駅連絡室の廃止については利用者や地域住民に説明の上、その声を受けて対応すること。

(9) 予算編成にあたっては住民福祉の増進をはかる事を念頭に置き、機械的・一律的予算削減は行わないこと。事業・政策の検証・行政評価を、利用者を含む市民視点で行うこと。膨大な予算を必要とし、財政圧迫(市民負担の増大)をまねく大規模事業の計画の縮小・廃止で、財政の健全化を追求すること。

(10) 市職員の増員で、働きやすい職場環境への改善に努めること。災害時の対応も念頭におき、現業職員の新規採用をすすめ、職員の育成に努めること。会計年度任用職員の継続雇用など必要な手立てを講じ、住民福祉の後退とならないようにすること。同時に雇用の不安定化を招く、非常勤職員・派遣職員の拡大を行わないこと。

(11) 業務委託の拡大により住民福祉の公共性・安定性・継続性が損なわれているため、安易に業務委託に頼らないこと。市民サービスの向上・労働条件についても市がモニタリングするなど把握し、常に改善に努めること。

(12) 市火葬場の運営に当たっては、すべての市民が安心して平等に人間の尊厳を保持できるよう努めること。使用料については、低所得者への恒常的な減免措置をはかること。なお、葬祭事業補助(市斎場含む)と霊園の施設の改善・拡充に努めること。

(13) マイナンバー制度については的確な情報の周知をおこない、個人番号カ

ードの過剰な申請促進をおこなわないことと、市の独自施策については個人情報保護の観点や費用対効果からも行わないこと。またマイナンバーの証明書等の記載については、情報漏洩の危険があるため行わないこと。

(14) 公共施設等総合管理計画については人口増を続ける本市の現状を踏まえ、学校や公民館、保育所など公共施設の新設についても検討すること。また、安易な統廃合は行わず施設本来の役割が発揮され、周辺環境にも配慮することを前提に実施すること。市有地についても安易に売却せず、市民の福祉向上に寄与する公有地の活用について検討すること。

(15) 水道事業の運営権の民間委託（コンセッション方式）は、水道事業の維持・向上につながらず、サービス水準の担保が不可能である。管理運営水準の低下などの問題が世界各国で顕在化し再公営化が進むなか、水道事業の担い手を育て、ライフラインを守り、水道の安全・安定を将来にわたって市民に供給できる水道事業として運営権の民間委託を行わず市として維持すること。

(16) 水道料金のありかたについて、地方公営企業法における独立採算性や水道法における総括原価方式の適用などを説明し、主権者である市民に対して市内各地での説明会、市民間での討議、市民からの声を聞く場を設けて住民合意を果たすこと。上下水道料金に低所得世帯への減額制度を創設すること。県水、流域下水道負担金が値上げとなったとしても市の水道料金、下水道使用料は値上げしないこと。

2、市民のくらしと福祉の充実を

(1) ①物価高で経済活動も市民のくらしも打撃を受け実質賃金も減っている現状から消費税を緊急に5%に引き下げること。②税体系を直接税中心、生活費非課税、総合課税、累進制にするように国に要望すること。

(2) 税金・金融・公共料金等の納税・収納相談窓口のいっそうの改善と充実(資料提供・減免、猶予制度など)につとめること。児童手当や年金の差し押さえなど「差し押さえ禁止債権」はもとより、売掛金の差し押さえなど生活破壊・事業の存続を危うくするような徴収・差し押さえは厳に慎むこと。生活困窮者の生活再建につながる相談や伴走型の支援を行うこと。

(3) 日本に対する国連社会権規約委員会の勧告に基づく、生活保護制度を利用しやすくする・申請権の尊厳を損なわない・スティグマの解消のための社会教育を行うことに取り組むこと。

(4) 生活保護法に精神にそった基準を遵守し、物価上昇や生活実態にふさわしい水準に引き上げるよう国に求めること。特に猛暑に対応するためのエアコンの設置・買換え・修繕のための費用や光熱水費などの高騰に対応するための夏季加算の新設については国が実施するまでの間、市独自でも支援策を講じるよう検討すること。

(5) 市として生活保護の改善(①職員・専門員の増員、②申請者・受給者の権利を尊重し簡素で速やかな措置・決定、③生活指導等にあたっては権利を尊重し、いやしくも人権侵害をおこなわないこと、④社会福祉事業2種施設などに入居している方への生活支援にあたっては、市が事業者への指導を怠らないこと)につとめること。

(6) 川口市福祉資金貸付制度を生活が窮迫した世帯が利用しやすい制度に改めること。

(7) 重層的な相談支援にあたっては、職員の専門性や体制の確保に努め、相談者の生活の安定に資する寄りそった支援を行うこと。

(8) 「住まいは人権の立場で、家賃補助制度や公的住宅をはじめ住居へのセーフティネットをつくり、困窮者が住居を失わないための対応策を進めること。

(9) マイナ保険証への一本化による紙の保険証の廃止撤回を国に求めること。

また、マイナ保険証の登録解除について広く周知すること。

(10) 国民健康保険において、市として低所得世帯への申請減免の明確化とともに、市独自の減免制度(多子減免制度などを子どものいる世帯への均等割削減)の拡充を進めること。

(11) 第3期埼玉県国民健康保険運営方針で法定外繰入の全廃が示されているが、この目標のために国保税の引き上げは行わないこと。更に、県として負担軽減策を講じるよう求めること。

(12) 高すぎる国保税を「協会けんぽ」並みに引き下げるために①全国知事会が求める一兆円の公費負担を行うこと②「均等割」「平等割」を廃止することを国に求めること。

(13) これまで川口市が実施してきた国民健康保険組合への補助金は国保組合加入者への保健事業の充実に欠かせないものであり、来年度以降も市国民健康保険組合事業補助金を継続すること

(14) 介護・福祉労働の担い手不足が深刻になり、介護事業所の倒産、廃業が続出していることから、国に対し介護職員の賃上げにつながる施策と介護報酬の底上げを求めること。あわせて、地域区分の近隣自治体との格差を軽減するための市独自の支援策を講じること。

(15) 介護保険は、相談体制・サービスのいっそうの充実に努めること。介護を必要とする全ての人々が十分な介護が受けられるように制度の充実に努めること。

(16) 介護予防を充実させ、総合支援事業においても、要支援者も含め、市としても専門的な介護が受けられるよう事業充実と事業者への支援に努めること。

(17) 一般高齢者への支援策の充実につとめ、紙おむつ支給事業の対象者の拡大や配食サービスの負担軽減に努めること。

(18) 特別養護老人ホームの待機者の願いに応え、多床室の増設を行うこと。

(19) サンテピアの大規模改修は入居者にとっても急ぎの課題であり、移転建替えも含めた施設の機能維持と高齢者の支援の役割が継続できるよう対策と財政措置を行うこと。

(20) 後期高齢者医療制度の廃止を国に要求すること。当分の間、社会保障と

して国の責任で財政保障を行うこと。保険料負担の公平性を高めるとともに、保険料軽減・医療費窓口負担の軽減を求めること。

(21) 高齢者の保健・福祉サービスの拡充のため、は〜とふる鳩ヶ谷・たたら荘の充実をはかること。住民の声に応え入浴施設を維持・設置すること。

(22) 物価高騰に見合った年金給付引き上げをおこなうこと。年金を自動的に下げる「マクロ経済スライド」の廃止や低年金者の年金底上げ・最低保障年金の確立を国に求めること。

(23) 「障害者権利条約」の批准・発効に相応しく、障害者が安心してくらする行政施策を行うこと。

(24) 重度心身障害者医療費助成の年齢制限・所得制限は撤廃すること。

(25) 障害者の雇用を引き上げるよう市内企業に要請すること。福祉就労者の仕事確保や賃金アップの支援策を市ですすめるとともに、労働法制の適用などを国に求めること。

(26) 市の障害者雇用を増やし、障害の種別で採用可否を判断しないこと。合理的配慮がされる環境整備を行うこと。

(27) 聴力障害者への親切な対応ができるよう、専任手話通訳者の増員・処遇改善と事業の拡充を行うこと。また、手話のできる職員配置の増員を図るとともに手話研修の受講を促進すること。とくに、医療センター等での対応には、細心の注意・配慮が求められることから、手話通訳を配置すること。

(28) 視力障害者に対する通知文書は点字に加えて音声変換対応（Saas の活用でQRコード添付など）の支援策を講じること。

(29) 障害者の入所施設の整備・拡充を市の責任で積極的に進めること。入所施設やグループホームの建設は、民間の事業者任せにせず、入所者の人権が守られるよう市として責任を果たすこと。

(30) 柳崎しらゆりの家の運営について開設前から市内他事業との連携をとり、様々なニーズに対応できるよう市が責任を果たすこと。福祉避難所として必要な整備をすること。

(31) 保育所の待機児の解消、地域の多様な保育ニーズに対応するため、公立の保育所の建替え・拡充（並木保育所・青木北保育所）をすすめること。又、こ

れ以上の公立保育所の統廃合は行わず、運営内容の充実に努め、新たな公立保育所民営化（指定管理者制度）は行わないこと。

（３２）子どもの育ち安心・安全のためにも、保育士配置基準を順守し、民間保育所でも配置できるよう保育士確保への支援を増やすこと。施設設置（園庭を含む）などの最低基準を引き上げるよう求めること。

市として、民間保育所での子どもの保育環境の充実と子どもの権利保障はもとより、保育士の配置特例の適用などの規制緩和をやめること。

（３３）国に対し公定価格の地域区分が引き下げられることのないように求めること。あわせて、近隣自治体との地域区分に起因する賃金格差を解消するための市独自の補助金を増やすこと。

（３４）子育て支援策の充実のために、子育て支援の充実・児童センターの増設など地区の実情に即した内容と事業を見出し推進すること。

（３５）保育施設における安心安全が守られ、子どものいのちと成長が保障されるよう市が指導・支援を徹底すること。

（３６）令和８年度までに導入がされる子ども誰でも通園制度は、保護者と保育施設との直接契約が前提となり、保育の安全性や子どもの育ちを保障する立場から、保育の質の確保に市が責任を持つこと。

（３７）子ども医療費無料制度の医療費の窓口払いの完全廃止（上限額撤廃）を実施すること。

（３８）子どもの虐待への対応として家庭児童相談室を「子ども家庭総合センター」に格上げし、専門職員の増員・相談支援の充実に取り組むこと。児童相談所などの専門機関との連携を強め、家庭への介入手法のスキルアップなど虐待防止の取り組みの充実を図ること。

（３９）子ども発達相談センターは、保健・医療・福祉・教育の一体化した相談・支援の充実を図ること。そのための専門職員の増員・育成をすすめること。

（４０）市として改めて「子どもの生活実態調査」を継続的におこない、子どもの貧困の解決やヤングケアラーの実態把握に努め、これらの結果を生かしながらさらなる支援策を講じること。加えて、国に対し実効性ある施策の早急な実施を求めること。

(4 1) 地域医療支援病院となった医療センターの取り組みは、患者の立場に立ち、本人やその家族等への周知、丁寧な説明、同意のもとでおこない、自治体病院として、地域の医療機関との連携を密にして不採算部門の医療など公的医療機関の役割をはたすこと。公的病院の役割として感染症に対応する病床確保を行うこと。

(4 2) 市内の無料低額診療を実施する医療機関での実態を調査し、利用者の生活支援につなげること。また、薬局での無料低額の支援がないため市として薬代への支援策など検討すること。

(4 3) 加齢性難聴への補聴器購入の助成制度の予算を増やすことと合わせ、助成額の増額をすること。高齢者の健康診査の項目に聴力検査を加えること。

(4 4) 新型コロナウイルスが5類移行後も障害者施設や高齢者施設（入所施設・通所施設）でのクラスターが発生しており、PCR検査や感染症対策への費用を支援すること。

3、産業（中小企業）振興・労働者福祉向上で地域経済の活性化（再生）を

（1）川口市中小企業振興条例に基づいた新しい産業振興指針を活かしつつ、市内のすべての中小企業、商店、地場産業、建設業、農業等の健全な発展と労働者の所得向上を図ること。

（2）「小規模企業振興基本法」の理念に基づき、各種の中小企業支援団体と連携を図り、各種制度がより活用されるよう制度設計の見直しを図ること。

（3）市内の全産業（商工業）・事業所の実態聞き取り調査を行政が実施し、実態把握・行政への要望を把握すること。その具体的行動のために、職員を大幅に増やし体制を抜本的に強化すること。

（4）地元中小企業、特に、中小零細企業（業者・商店）にも受注の機会が保障され、広く仕事確保ができるように分離分割発注など発注方式の改善等を行うこと。また、関係団体との連携で小規模事業者登録制度の周知を強化し、さらなる発注件数・金額の増加で公共施設の修繕につとめること、特定の受注業者に件数・金額が極度に偏ることなく制度を運用すること。

（5）公共工事に従事する建設労働者の労働条件を保障するために、発注者としての市が、設計労務単価に見合った賃金が確保されているかの実情調査と、指導・労働条件の向上に責任をもつこと。週休2日制の導入に伴い受注業者や労働者へのしわ寄せがいかないよう市として工期を設定すること。

（6）「公共サービス基本法」で示されているように、公契約における労働者の賃金・労働条件の向上、当該業者の経営状況等の実態把握を図り、市民に良質なサービスを提供すること。

「公契約条例」の先進事例を調査研究し、行政、業者団体、労働組合などの参加のもと協議の場を作り、速やかな制定をすすめること。

（7）住宅改修資金助成制度の助成限度額・助成率の引き上げ、利用制限の緩和を行い、予算総額の増額をはかり経済波及効果を高めること。年度途中で予算を超過する申し込みがあった場合は、予算を増額して対応すること。

（8）市発注の公共工事で下請けにおいて不払いが発生した場合、業者保護の立場で市が話し合いの場を設けること。

（9）市内中小企業の再生をかけたの経営改善・努力をするために各種融資制

度の見直し・充実（限度額、期間、利率・保証料、借換など）にむけて、関係団体等との意見交換を図り制度の改善、必要な制度の創設に努めること。

（１０）建設業退職金共済制度の対象となるすべての労働者が手帳を取得し無理なく証紙を請求できる体制づくりと公共工事の対象事業者に対して「建設業退職金共済証紙購入状況報告書」と「建設業退職金共済証紙貼付実績報告書」が提出されるよう市として関係団体などとも協議すること。建設キャリアアップ制度の周知をはかること。

（１１）所得税法第 56 条を廃止し、事業主、家族従事者の働き分（自家労働）を経費として認めるとともに、事業用資産については、現在期限付きで行われている一定期間の事業継承を条件に相続税の免除など、更に拡充することを国に求めること。

（１２）商店街の基盤整備等への支援策の充実にむけ、現行施策の見直し、改善策の充実（例えば法人化への支援、整備事業への助成、照明灯等の施設建設・維持管理〔建設補助・融資、電気料など〕、空き店舗対策等）を行なうこと。

（１３）商店改修事業補助金制度が活用されるよう手続きの簡素化、補助額の拡充、感染症対策以外の備品購入への補助など関係団体との意見交換を図り改善を図ること。

（１４）農地の相続税、贈与税の軽減・猶予制度の充実、市街化区域内農地の固定資産の評価額の大幅引き下げ、現況農地に対する宅地並課税の廃止等で農地の保全・生産緑地の保全・環境の保全をはかること。また多数の生産緑地についてはが期限を迎える 2022 年以降も生産緑地が維持できるよう、そのために国・県への働きかけと独自支援策を行なうこと。

（１５）市内での農業振興に資するため学校や食事を提供する公的施設（保育所・病院・福祉施設）での市内産農産物の活用を進めること。

（１６）消費税 10%に伴う複数税率やインボイス（適格請求書）は、煩雑な事務負担を中小業者に押し付け、インボイスは免税業者を取引から排除することから国に対し廃止を求めること。

（１７）外国人研修生の受け入れについては、実態把握をおこない、人権保障の観点で研修施設や労働環境の改善を関係団体と共にはかり、研修生の人権を保

障すること。

(18) 建設アスベスト訴訟の早期全面救済・建設石綿被害者補償基金の創設を国に求めること

(19) 市内中小企業に就職した若者に対して奨学金返済支援や家賃補助を拡充するなど市内の雇用確保・就職支援を行うこと。

(20) 市として地方創生臨時交付金の存続・拡充を国に求めること。あわせてこれらを活用した、非製造業など含め広範な業種への支援をおこなうこと。

(21) 最低賃金引き上げとあわせ、中小企業の社会保険料の負担軽減を求めること。

4、子どもの成長と発達、権利を保障する学校教育を

(1) 「いじめ」問題の解決は本市の教育行政にとって最重要課題となっている。「いじめ」のシグナルを見逃さず、早期に取り組むこと。学校での対応は、子どもの人権を大切にすゝる立場を貫き、教育的な配慮をもった対応を基本に行なうこと。また、「いじめ」根絶のためには、児童・生徒の自主性を重視し、学校、保護者、地域の教育力を信頼し総力をあげて取り組むこと。

(2) 総合教育会議は教育の自主性、政治的中立性、継続性、安定性を確保することを大前提におこなうこと。

(3) 教育予算の増額で高等学校の授業料を無償に戻し、小中学校の教員の超過負担の解消と定員の大幅拡大、就学援助等補助対象の拡大・補助基準の改善等、加えて20人程度学級の早期実現等を、国に要求すること。

(4) 県基準にもとづく、35人以下学級の完全実施を行うこと。合わせて市としても20人程度学級を進めること。そのための学校整備を行うこと。また、産休・育休・病休に伴う欠員を早期解決、発達障害児に対応できる教員の加配、日本語教室の教員スタッフの増員、英語専門の教員を各小学校に配置、学校図書館司書の一枚に一人の配置をおこなうこと。

(5) 保護者の教育費負担を軽減すること。あわせてすべての子どもが安心して就学できるよう、就学援助制度の充実・改善に努めること。

(6) 校則は子どもの人権にかかわる性格を有すると同時に、教育活動の一環であることから、各学校での具体的な見直しを、憲法や子どもの権利条約もふまえて、教職員・子ども・保護者の話し合いで見直すこと。

(7) 教科書採択は現場教師の意向を十分に尊重し、民主的に決定すること。全国一斉学力テスト・県の学力状況調査は、国・県に中止を要請すること。また、市独自の低学年学力状況調査及び小中漢字チャレンジ検定を中止すること。

(8) 教育に支障をきたすことのないように、学校の運営、施設の維持管理（体育館を含むトイレ洋式化の促進、全校温水シャワー設置、雨漏り改修、アスベストの点検・改修）、特別教室・給食室等へのエアコン設置、学校行事の運営、更には、備品（机、いす、ロッカー）、消耗品、及び教材（理科教材なども含む）に必要な物品の不足等おこらないよう市の教育予算、並びに学校配当予算を抜

本的に増やすこと。

(9) 部活動の地域移行にあたっては、部活動を子どもの権利の保障と位置づけ、教員の負担の解消と、長時間の拘束やハラスメントなどの歪みの是正、経済的負担が過大とならないよう地域での部活動を支える予算を国に求めること。また、部活動の地域移行については、教育的側面の欠落となる可能性など問題が少なくなく、子ども・保護者・教職員・受け皿となる民間団体・行政の合意を前提として対応すること。

(10) 川口市立小中学校あり方審議会が設置されたが、小中学校の適正規模を考える上で、拙速な統廃合計画は行わず、子ども・保護者・地域住民など学校関係者とともに教育環境の充実に取り組むこと。合わせて、児童数増加が著しい学校の過密解消・教室確保など改善を行うこと。なお、義務教育学校については、教育的メリットだけでなく課題も出されていることから、本市の導入については慎重に判断すること。

(11) 児童の登下校時の交通安全を第一にという大原則のもと、通学路の安全点検・改良等（学校周辺の道路整備・ブロック塀の安全確保、街路、交差点の安全対策等の完備など）に努め安全確保を怠らないこと。

(12) 学童保育料の引き下げと、ひとり親家庭の軽減策を講じること。県のガイドラインに沿った学童保育室の環境整備、子どもの発達に応じた保育内容の充実（専門職員確保・時間延長含む）に努め、保護者の声を十分に考慮すること。支援員配置の緩和に伴い、保育の専門性を確保し、支援員を養成するための市独自の研修を充実すること。

(13) 川口市立高等学校定時制課程において、夜間以外の昼間の二部制の実施など多様化する学びにこたえられるようにすること。また、卒業後の進路相談及び支援について、丁寧な対応を行うこと。

(14) 特別支援学級の全校設置を早期に取り組み、教員の養成をすすめることに加え、市として教員の加配に取り組むこと。また、特別支援学級の過密化が進む学校では早期に改善が図られるようにすること。通級指導教室の各地域への設置をすすめること。

(15) 県立川口特別支援学校の教育環境の整備・充実と、市内での肢体不自由

児が通学できる新たな特別支援学校の設置について市有地の活用等も含め具体化のための協議を急ぐこと。また、高等部の生徒の卒業後の進路保障のため市として支援を行うこと。

(16) 学校施設は避難所となることから災害時の対応も含め、給食の基本方針を自校献立・自校調理方式に改めること。

(17) ①子どもの成長と発達に重点をおいた給食、安全でおいしい給食をめざし、常に給食内容の改善に努めること、②アレルギー対応をするために栄養士を全校に配置すること、アレルギー対応の代替食の提供をすること。アナフィラキシーショックへの対応など全職員への研修を行うこと、③食文化・教育上からも「はし」を採用し、使用する食器の改善（磁器食器等）を図ること。④地産地消を進めること。

(18) 学校給食の無償化を進めること。当面、物価高騰の影響による学校給食費の引上げに対し、保護者負担の軽減策を継続するとともに更なる負担軽減に取り組むこと。

(19) 病休・育休・産休の代替教員、特別加配教員の配置は遅れることのないようにすること。特に、市の独自体制を確立し、短期（周期）の病休等の緊急代替を実施すること。

(20) 小中学校の施設の老朽化対策、教室等への風雨対策、照明等の点検、校庭の防塵、安全対策の充実を図るための改修・改善を急ぐこと。

(21) 公立夜間中学の運営にあたっては、引き続き丁寧な周知と、自主夜間中学等との連携をはかり、希望するすべての人たちが、安心して通えるようにすること。スクールカウンセラーやソーシャルワーカーを配置し、就学援助制度の適用または、それに類する制度を創設すること。

(22) 返済の必要がない奨学金制度を、全市民対象に拡充すること。就学援助制度の年齢撤廃をし、必要な方の制度利用を進めること。

(23) G I G Aスクール構想・I C T推進事業によって児童生徒のネット依存症や目などの健康被害に留意すること。I C T支援員を全校に配置すること。

(24) 中学校の体育館のエアコンの運用は、安全衛生基準に基づき適切に使用を促すこと。また、小学校体育館へのエアコンの設置をすすめること。

5、市民の文化、スポーツの活動の高揚を

(1) 文化財の保護、伝統文化の継承、郷土芸能の復活に努めるとともに、総合博物館の設置について検討すること。郷土資料館（文化財センター）については今後も鳩ヶ谷地域に配置すること。施設の維持管理を適切にすすめ、文化遺跡・出土品・古文章の保管管理をきちんと行うと同時に公開展示等を積極的に行い、文化財の保全と普及に努めること。

(2) 公共の場での多様な表現の機会を保障し、憲法 21 条が定める表現の自由を最大限保障すること。

(3) 令和 8 年開設に向けて美術館運営の具体化については市民の声、専門家や関係諸団体の意見をよく聞き、議論し事業を進めていくこと。

(4) 公民館やスポーツセンター、社会教育施設の耐震化・建替え・改修工事を早急に実現すること。その際には、地域住民、利用者の声をよく聞く事と共に代替施設について住民要望に応じて選択肢を増やすこと。

(5) 社会教育施設のバリアフリー化を進めエレベーターの設置やトイレの洋式化を行うこと。公民館の調理室のエアコンの設置を急ぐこと。また、図書コーナーの図書の蔵書を新品の本を含めて充実をはかること。

(6) 各地域のスポーツ振興を推進しスポーツセンター、体育館等を市民の要望に応え、改善・改良（障害者対応・規模の拡充など）を急ぐこと。

(7) 公民館・スポーツセンターなど、社会教育の理念に基づき使用料の無償化の検討をすること。

(8) 公民館が市民の生涯学習の場として役割を果たすよう、各公民館に社会教育主事などを配置し、職員の専門性を高めること。

(9) 南平文化会館の耐震化を含めた大規模修繕計画を早急に立てること。

(10) 戸塚地区の人口増加に伴い市民要望である東川口駅周辺に公民館の新設を計画すること。また東川口行政センターの会議室等を市民が利用できることを広く周知すること。

(11) 見沼代用水東縁について歴史的価値の認識が高まるようにすること

(12) 県立屋内プールの設置にあたって市民や市内団体が低廉な利用料で使えるよう県に要望すること。

6、住み良い住民主体のまちづくりを

(1) 社会生活に欠くことができない施設・まちづくりをすすめること。各地域に公民館や公園・学校などの公共施設を設置し、日常圏域（商店・病院・福祉施設など）ごとの実施把握とまちづくりについて市民主体ですすめることのできる場を設けること。

(2) 膨大な費用を要し地域住民の生活・コミュニティの破壊につながる再開発事業、街路整備事業は見直し・凍結を行い、市民参加で日常生活に役立つようなまちづくりへ見直すこと。

(3) 公共交通の充実をはかりコミュニティバスの見直しに際しては市民や事業者の意見をきき利便性が向上するよう努めること。デマンド交通についても市民の個別のニーズに応えられるよう計画をすること。

(4) 高齢者の移動手段の確保として東武バス、国際興業バスの「乗り放題バス」料金に市として補助を行い「シルバーバス」として実施すること。

(5) 交通事故ゼロを推進するため歩車分離（自転車専用レーン等の整備を含む）を進め、交差点等の安全施設の充実及び速度制度の面的整備の拡充に努め市民にその目的や効果を図を入れる等して解りやすく周知すること。

(6) 京浜東北線・武蔵野線の各駅のラッシュ時の安全対策として編成車両数の増、運行回数の増、駅舎の改善、東川口駅へのホームドアや風雨対策などを急ぐこと。

(7) 公共施設（道路を含む）のバリアフリー化を進めること。

(8) 下水道の未設置地区の解消を区画整理の進捗如何にかかわらず急ぎ全市普及すすめること。また、老朽管やポンプ場の耐震化を急ぐこと。

(9) 安全な水を供給するため、石綿セメント管の早期撤去とダグタイル・鋳鉄管採用など耐用年数を超えた鋳鉄管・継ぎ手などの取替え事業を急ぐこと。

(10) 区画整理・地域の面整備の未整備地区の計画を、関係住民に情報提供をおこない、合意のもと進めること。また、個別相談について各事業所で情報を共有し、しっかりと対応すること。各事業区の（早期完結にむけた財政支援）除草や側溝の清掃など住環境の改善を含め、あらゆる努力をすること。

(11) 生活道路の整備、歩道の確保や点字ブロック（黄色）の設置、交差点

改良、私道舗装の促進、道路の補修維持管理（白線塗布を含む）、遊歩道にベンチ・腰掛けを設置、街路灯の整備（LED化）、橋の長寿命化などを抜本的に強化し、進めること。そのための予算を増やすこと。また、信号・音響信号の未設置交差点については、県に対し求めていくこと。

（１２）市が管理する街路樹や保存樹木、公園等、高木の安全対策はもとより、樹木の健康診断を実施し保存と安全対策を行うこと。親しみをもてるよう植物の名前が分かるようにすること。

（１３）２０２０年度に導入した羽田空港発着ルートの見直しを行い、川口市域の上空の安全を確保するよう国に求めること。

（１４）再開発事業やSKIPシティ利活用、川口駅周辺まちづくりビジョンの検討にあたっては、市民参加での学習・提案・検討する場をつくり、地域住民とともにまちづくりを進めること。

（１５）市街化調整区域における資材置き場等の土地利用転換が無秩序に行われている現状については、農地の保全を大前提とし、実質的な開発行為の促進につながらないよう十分な配慮と、地域住民及び農業従事者の声が反映されるよう、課題の整理をおこなっていくこと。

（１６）新井宿駅北側地区および戸塚安行駅南側地区の構造改革特別区域については、計画ありきで進めず、まちづくりは権利者の合意を図るためにも、丁寧な聞き取りをおこなっていくこと。

（１７）川口駅への中距離電車停車を進める際には、市の負担が過大とならないようホーム新設・駅舎の改善をもとめること。

7、安全で災害に強い都市づくりを

(1) 台風災害に備えて①垂直一時避難協定を早急に進め内水氾濫時及び、河川の越水時の垂直避難体制を整備すること②指定緊急避難場所の公民館等の在り方について住民の声を聞き検証をおこなっていくこと。市内学校施設との連携を強化すること③災害時の情報を速やかに伝達するためにも、防災メール登録者を増やし、防災無線の放送は繰り返し行い、警報等解除時の放送まで責任を果たすこと④災害発生後、被災者に対する支援等の情報提供は適時行い、ホームページへの掲載や印刷物の配布を行うこと。

(2) 福祉避難所としての施設整備・拡充を急ぎ、災害時の同時または早期開設にむけて検討をすすめること。個別避難計画の策定を急ぐこと。

(3) ポンプ車（ミニ車を含む）、はしご車、化学車、救急車、予防・警防職員等を含め、消防資機材・人員体制を消防整備士神に照らし予算を増やしすすめること。そのための国庫補助の増額を要求すること。

(4) 消防職員への新人研修、人員増・体制強化を急ぎ万全を期すこと。

(5) 消防分署・消防団車庫の建替えも含めた老朽化対策及び耐震化を急ぐこと。

(6) 消火体制、防災機能の向上を具体的にすすめること。消防団員増、自主防災組織の充実強化、また、防災機能の向上として耐震性貯水槽、排水機場や地下浸透貯留施設、街角消火器の増設、遊水池、防災公園、公園・緑地等の整備避難所・避難場所等の整備・充実につとめること。

(7) 一般家屋・マンション等の住宅耐震診断と耐震改修工事の補助の拡充をすすめること。

(8) 災害時の民間事業者からの支援・連携に即応できるように幅広く災害時応援協定の締結をすすめること。

(9) 局地的集中豪雨への災害対策を強化し、下水・河川・遊水池・貯留池・排水機場や地下浸透貯留施設などの整備を早急に行うこととあわせ、整備基準を見直し（一時貯留の増設など）災害の防止に務めること。また、水害の発生常襲地帯を総点検し、浸透・保水舗装の整備などまちづくりのあり方についても抜本的に改善すること。そのための予算を増やすこと。

(10) 旧芝川をはじめ市内中小河川・水路の浚渫・改修工事、堤防の強化、水質浄化対策を促進し、水害対策・緑化対策を急ぐこと。排水ポンプ場の自動化など、適時・適切な運用ができるようにすること。

(11) 荒川の河川敷に於いては荒川運動公園等の利用者への安全確保のための、日常的な護岸整備を怠らないこと。堤防の機能低下を防ぐためにも、国に対して引き続いての適切な整備・補修を求めていくこと。

(12) 荒川飛鳥工区の高規格堤防の建設にあたっては、都度、地域住民への丁寧な説明を求めるとともに、市としても当該自治体として進捗状況等、住民生活に支障が起きないように事業を把握すること。また、荒川橋梁付近のかさ上げ工事については、綿密な実態調査を行い堤防の質的強化が行われるよう、国に対して働きかけること。

(13) 市内の土砂災害特別警戒区域の危険除去の方法について検討すること。

(14) 消火器の点検・更新について市民への周知をはかること。

8、自然環境と社会環境にやさしいまちづくりを

(1) 2050年に温室効果ガス排出「実質ゼロ」を実現するため、市として政府目標を上回る「地球温暖化対策実行計画」へと見直しを行い、「ゼロカーボンシティ宣言都市」としての具体化を図ること。

(2) 石炭火力発電の新設や原子力発電の再稼働は行わないよう国に求めること。あわせて、原子力に依存しない社会への移行を目指し、代替エネルギーの確保と再生可能エネルギー等の新エネルギー導入促進のために必要な施策をより積極的に推進することを国に求めること。

(3) 市として省エネと自然エネルギーの導入を積極的に実施すること。また、公共施設や福祉施設、教育施設への太陽光発電等の自然エネルギーの導入を促進すること。新エネルギーの市民への利用促進のため各補助金の拡充を行うこと。

(4) ゼロウェイスト具現化のために廃棄物処理計画に基づきゴミ減量化の具体化をすすめること。

(5) ゴミ収集体制を災害時でも安定的に対応するために、職員の体制充実・育成をすすめること。又、災害ゴミの収集のための車両の確保をすすめること。

(6) ふれあい収集の周知徹底と充実、戸別収集の検討を行うこと。

(7) 石綿使用施設の解体・撤去作業等による周辺環境の汚染防止対策に万全を尽くすとともに、実行力ある方策を講じるための関係法令の改正・財政措置を国に求めること。

(8) 戸塚・朝日環境センターの焼却灰（飛灰など）の最終処分場の確保に努めること。

(9) 戸塚環境センターの施設整備工事にあたっては、周辺環境に配慮し、影響のないように進めること。施設の在り方について近隣住民への説明と合意を図ること。

(10) 朝日環境センターの再整備については、ごみ処理方法、再整備の金額等、全市民的に議論して検討できる様に機会を持つこと。

(11) 生物多様性の実践に向け、動植物の生態系の実態調査をすすめ、日本固有の植生や動物の保全に努めること。

(12) 産業廃棄物や資材置場などの地域の環境への配慮や、違法行為を許さないための徹底した立入検査の実施と指導、違反者への厳格な監督と行政処分をすすめること。

(13) 住宅街の駐車場やレンタルコンテナが資材置き場、作業場となっている現状も把握して対策をとること。

9、女性の地位向上とジェンダーフリー、人種・国籍で差別なくすべての人に希望を

(1) 男女共同参画の施策・検討を充実させ推進するためのセンターの設置や、男女共同参画担当を課・室に体制を格上げ強化し推進すること。

(2) 職場内（市の各部局・学校など）のパワハラやセクハラなどの各ハラスメント専門相談など常設の「相談窓口」の充実と、解決のための具体的な方策を講じること。

(3) DVなどの緊急の相談にも即応体制のとれる「シェルター」と支援体制を整えること。なお、ドメスティック・バイオレンス被害者の自立支援のための福祉的援助や住宅確保など総合的支援を国に要望すること。

(4) 子ども・若者を性暴力・痴漢などの被害者にも加害者にもしないために、相談体制の充実を行うこと。合わせて、子どもの成長発達のためにも包括的性教育を学校教育の中に位置づけとりくむこと。

(5) 女性の就労機会の拡大、男女間の賃金格差の是正をめざし、関係機関とも連携し技術習得、資格習得講座等を行ない就労条件（職場環境の改善）の向上に努めること。

(6) 市職員の採用にあたっては男女雇用機会均等法を遵守し、女性幹部登用比率を拡大すること。育児や介護など家族的責任を持つ職員は、男女を問わず、看護休暇や育児介護休業制度の取得をすすめること。

(7) ブラック企業・ブラックバイト根絶をはかるための労働法制の周知と県・国に対して指導強化を求めること。

(8) 「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」（ヘイトスピーチ解消法）の主旨に基づき、人種・民族差別及び扇動行為が市内で行われないよう公園の使用を許可しないことをはじめ適切に対応すること。

(9) 外国人住民との交流を進め、多様性を活かした地域文化の成熟を促進すること。新たな居住者に対して生活支援を行うと共に、丁寧な地域のルール説明を行うこと。

(10) 外国籍住民の相談窓口の周知と日本語習得のための学習機会の充実を

進めること。

(1 1) 仮放免者や法外住民の基本的な人権を侵害することのないよう必要な支援策を国に求めること。

(1 2) LGBT、SOGI の社会的認知をすすめ、性的指向または性自認を理由とする差別解消の推進施策の計画を定め、環境整備を行うこと。

(1 3) 国に対して選択的夫婦別姓制度の実施を求めること。

(1 4) 支所や公民館などの公的施設のトイレに生理用品を常備すること。

10、憲法の平和等の諸原則をまもる市政を

(1) 憲法第99条（憲法尊重擁護の義務）に則り、憲法を遵守した市政運営を行うこと。

(2) 「平和都市宣言」の都市にふさわしく、あらためて宣言文を市民に周知し、市平和展の継続と広報など資料の収集とともに次世代に継承するための取り組みを行うこと

(3) 非核三原則（「核兵器をつくらず、もたず、もちこませず」）の法制化と、「被爆者援護法」を改定し原爆被害の国家補償と核兵器廃絶を明記するよう国に要望すること。

(4) 国民保護法による「保護計画」策定の必要がないように、憲法の理念に立脚し、平和外交に徹するよう国に働きかけること。

(5) 特定秘密保護法、安保法制、共謀罪法など立憲主義に反する諸法律の白紙撤回と憲法9条を厳守するよう国に求めること。また防衛予算の2倍化については反対すること。

(6) 2021年1月22日に発効した核兵器禁止条約について、日本政府も署名・批准を行うよう国に求めること。

(7) 日本被爆者団体協議会がノーベル平和賞を受賞し、核兵器廃絶にむけた機運を高めるためにも市として核兵器の被害の実相を市民に知らせるための取り組み（市内の被爆者からの被爆体験の聞き取りや資料の常設展示、公民館の自主事業としての平和展開催など）をすすめること。

(8) イスラエルとハマスの軍事衝突、ロシアのウクライナ侵攻に対して、市としても平和首長会議に呼応して平和的解決に向けた賢明な外交努力を求め、連帯すること。

(9) 投票所へのアクセスが容易になるよう地域の実情に合った投票所の増設と、期日前投票への移動支援策を講じること。また、選挙公報の全戸配布が届いていない世帯があることから、市として配布状況の検証を行い改善すること。